



内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討 ワーキンググループ（第8回） 議事要旨について

1. 検討会の概要

日時：令和3年7月19日（月） 10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：河田主査、今村副主査、井出委員、蝦名委員、片田委員、佐竹委員、鈴木委員※、
谷岡委員、中埜委員、根本委員、平田委員、福和委員、松本委員、丸谷委員、
榊統括官、内田審議官 他
※代理出席

2. 議事要旨

事務局から被害想定及び防災対策について、資料に基づいて説明を行うとともに、委員間で議論を行った。委員からの主な意見等は次の通り。

- 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の防災対策として、南海トラフ地震と同様、観測データ等による巨大地震への注意等の防災対応が可能かどうかの科学的な整理が必要。
- 北海道、東北でも非常に気温が高くなっているため、夏季の熱中症についても対策が不可欠。冬季だけではなく、夏季の避難時の対応も必要ではないか。
- 仮設トイレの設置においては、要配慮者の利用にも配慮した仮設トイレ等の配備の必要がある。
- 避難を円滑に実施するためには避難路等の整備が必要であり、財政支援が必要不可欠である。法整備や財政支援について引き続き検討をお願いする。
- 自助・共助・公助について、公助の限界を踏まえ、発災直後は自助・共助を高めていく必要がある。
- 行政として、発災時に民間企業や様々なデータ等を活用しながら、どうやって住民に正確な情報を流していくかというのが一つ人々の早期の行動を促す大きなポイントになる。

- 低体温症対策には温かいものを食べることが良いので、避難所での対策に追加していただきたい。
- 特に寒冷期には避難者の屋内への避難が必要なので、夏などの平時から協力を求めるのではなく、寒冷期の本当に危機が迫った時に企業や住民等に避難者の受け入れを協力してもらおうといったようなことも検討する必要がある。

以上